

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富南小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

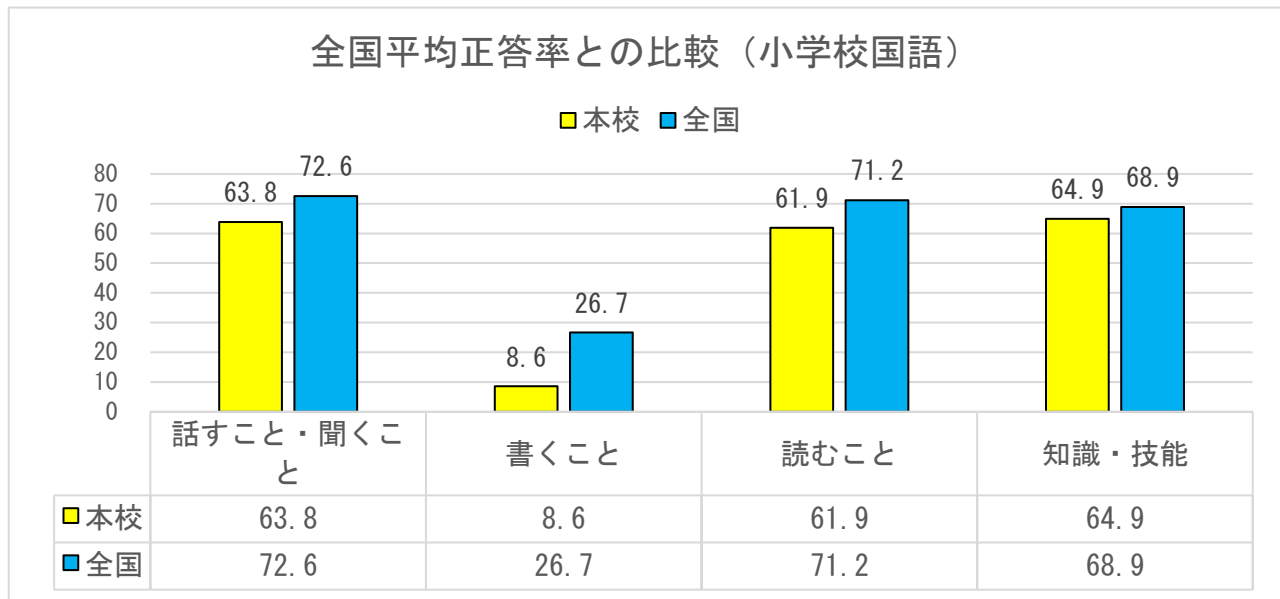
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

国語科全体では、全国正答率 67.2% に対して、本校の正答率は 60.0% であり、7.2 ポイント下回りました。全国正答率を有意に下回る結果といえます。領域別では「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」に課題があります。設問別正答率では、全 14 問中、2 問が全国正答率を上回りました。

領域別正答率では、本校の国語の正答率は4つの領域いずれにおいても下回りました。「話すこと・聞くこと」では 8.8 ポイント、「書くこと」では 18.1 ポイント、「読むこと」では 9.3 ポイント、「知識・技能」では 4.0 ポイントそれぞれ下回りました。最も下回ったのは、「書くこと」の領域でした。

#### (2) 成果と課題

成果が見られたのは大問3三「日常よく使われる敬語を理解している」(+2.4)、大問1三(2)イ「送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使う」(+1.2)、大問1一「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」(+1.0)設問です。

課題が見られたのは全国を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で 5 問ありました。大問 1 三(1)ウ「学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」(-18.3)、大問1二「図表やグラフなどを用いて自分の考えを分かりやすく伝えるように書き表し方を工夫する」(-18.1)、大問2四「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」(-16.2)、大問3一(2)「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」(-11.1)、大問2三「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」(-10.6)などの設問を解く力に課題が見られます。

### (3) 学力向上のための取り組み

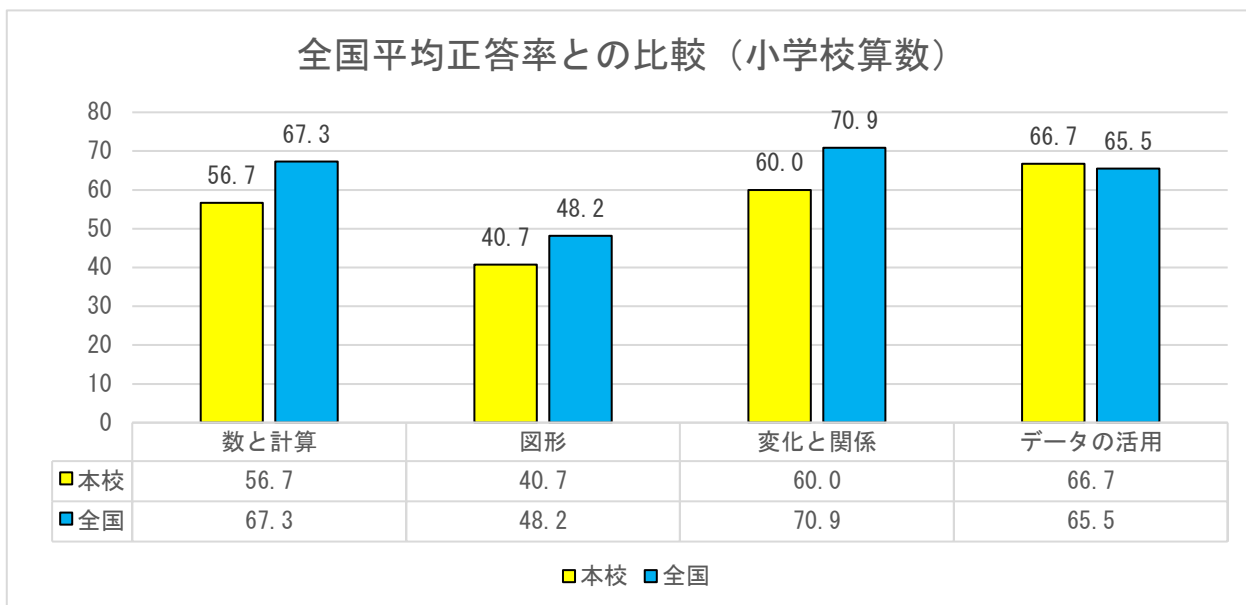
#### 【学校では】

- 読書タイムでは、図書室からの「おすすめ50冊」の本を中心に読んだり、物語やエッセイなど文章量のある本を読んだりして、読書の習慣化や読解力の定着を図っています。
- 週1回の聴き合いタイムでは、低・中・高学年ごとにねらいを設定し、ペアやグループでテーマに沿って聴き合い活動をしています。国語だけではなく、他教科でも聴き合い活動を取り入れ、自分の考えを深めたり広げたりしています。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。
- 一人一台学習者用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。
- 「なぜ」「どうして」などの理由を問う発問や複数の読み取ったことを関連付けて考える発問を工夫し、子どもたちが主体的に学び、より考えを深められるように指導しています。

#### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。
- 子どもが音読をしている間はなるべく大人が手をとめて音読を聴く姿勢を意識しましょう。子どものモチベーションアップになります。読み終わった後に、「上手だったね」「気持ちがかもっていたね」など一言褒めてあげると自信がつけます。物語などでは、感想を聞いてみるのもおすすめです。
- 本の読み聞かせは、「自己肯定感」を高めます。「自己肯定感」を高めることは、交友関係や学力にも良い影響を及ぼし、自信をもって行動ができるようになります。

## 2 算数



### (1) 結果

算数科全体では、全国正答率 62.5% に対して、本校の正答率は 54.0% であり、8.5 ポイント下回りました。全国正答率を有意に下回る結果といえます。設問別正答率では、全 16 問中、全国正答率を上回った設問は 3 問でした。

領域別正答率をみると「データの活用」では全国正答率を 1.2 ポイント上回りました。その他の 3 領域では下回りました。「数と計算」では 10.6 ポイント、「図形」では 7.5 ポイント、「変化と関係」では 9.1 ポイントそれぞれ下回っており、すべての領域で全国正答率を 5 ポイント以上の差があります。最も大きく下回ったのは「数と計算」の領域でした。

### (2) 成果と課題

成果がみられたのは大問 4 (4) 「二次元の表から条件に合う数を読み取ることができる」(+4.0)、大問 4 (3) 「示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み見出した違いを言葉と数を用いて記述できる」(+0.9)、大問 2 (1) 「台形の意味や性質について理解している」(+0.2) 設問です。

課題がみられたのは全国を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で 7 問ありました。大問 3 (2) 「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」(-28.1)、大問 2 (4) 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」(-15.1)、大問 4 (1) 「百分率で表された割合について理解している」(-14.6)、大問 3 (4) 「(2 位数) ÷ (1 位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる」(-13.3)、大問 1 (2) 「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる」(-11.4)、大問 1 (1) 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる」、大問 3 (1) 「( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる」(-10.3) などの設問を解く力に課題が見られます。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 低・中・高に応じた問題提示を工夫しています。問題の中から解決に必要な情報を読み取る習慣をつけています。
- 児童の実態に応じて適用問題を準備し、身に付けた思考力・判断力・表現力を活用して適用問題に取り組む時間を確保しています。また、日常生活で割合や最小公倍数や最大公約数を求める場面を考えるなど、適用問題を工夫して指導しています。
- 各学年で振り返り（算数日記）のポイントを設定し、算数用語を使ったまとまった文字数の文章を書く指導をしています。
- 算数スキルタイム（週2回）の内容の充実を図り、基礎基本の力や活用する力をつけています。
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたりしています。また、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにしています。
- 様々な見方や考え方ができるように、ペアやグループで話し合う聴き合い活動を取り入れています。図・式・言葉を使って自他の考えを表現・想像し、つなげることで考えを広めたり、深めたりしています。さらに、図や式、言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めています。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリルなど、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めています。
- 一人一台学習者用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、プログラミング学習や発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「お菓子の空き箱を開いて組み立てる」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。ゲーム感覚で親子一緒に楽しめる算数遊びを是非やってみてください。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

##### 《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	82.9%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	25.7%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	54.3%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	25.7%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	74.3%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	80.0%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	68.6%	82.6%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

将来の夢や目標では全国を 13.5 ポイント上回り、社会貢献については全国を 4.7 ポイント上回っています。自己肯定感では全国を 16.9 ポイント下回り、規範意識では、全国を 14.0 ポイント下回っています。

##### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	14.3%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	2.9%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	45.7%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	22.9%	26.9%
「30分より少ない」	5.7%	11.4%
「全くしない」	2.9%	4.6%

計画的な家庭学習をしている児童については全国平均を大きく下回り、概ね半分の数値でした。勉強時間が1時間未満の児童が3割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するよう指導をしていきます。また、自分の目標に向かって計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

## (2) 改善に向けての取り組み

### 【学校では】

- 学校からは、学年や児童の実態に応じた宿題を出して、基礎基本の定着や習熟を図っています。
- 自他の良さを認める活動を取り入れています。「ありがとうの木」で友達のよいところを紹介したり、帰りの会等で友達のよいところを認め合う時間を設定したりしています。また、毎朝の放送でも、職員が見つけた子どもたちのよいところを紹介しています。
- いじめを容認しない、また、規範意識を高める教育活動をあらゆる場面で取り入れています。毎月の生活アンケートや道徳の授業、人権集会等、日々の教育活動の中で、取り組んでいます。

### 【ご家庭では】

- 上記の家庭学習についての調査の項目は、改善を図ろうと年に2回、中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習がんばり週間」でも取り上げている項目です。「家庭学習がんばり週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着は極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 低学年・中学年・高学年別に「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布しています。家庭学習の手引きをご覧になり、学習時間のめやすや、学習のポイントを参考にして自分で学習できるように励ましてください。